

「実践」

校長 前田 達彦

今日から第3学期が始まります。3学期はそれぞれの学年における1年間のまとめの学期であり、仕上げの期間^{とき}です。3年生は卒業後の道に、1・2年生はひとつ上の学年へ、それぞれ「繋」げていくという極めて重要な学期です。まずはそのことを自覚したうえで、新学期をスタートしてほしいと思います。

それでは、新しい年の始まりにあたり、皆さんが今後大きく飛躍することを願い、私からの期待の一端を述べ、新学期の訓話といたします。

第一の期待は、新年、そして新学期というこの節目に、夢や目標を定め、その達成のために、確実に何かを「実践」してほしいということです。夢や目標は、大きくても小さくてもいい。人と同じでなくていい。人に言わなくてもいい。自分自身で「今年こそは、これを目指す」と、決意を新たにしてほしいと思っています。「夢や目標を掲げる」だけ、あるいは「心で思う」だけでは十分ではありません。夢や目標に向かって、何かを「実践」していくことがとても重要なのです。

皆さんが選んだこの島原農業高校は、農業に関する専門高校です。農業高校で学ぶ専門分野は、学習の中に実験や実習が多くあります。教室で、教科書や参考書をもとに、理論や理屈を学びます。頭でしっかりと考えたり、記憶したりする学習です。そして、その学んだことをもとに実践する、実際にやってみるということを行います。

ここが農業高校らしさです。学んだ理論・理屈と現場で実践する体験・経験を繰り返しながら学びを深めていきます。このトータルが「学力」です。ペーパーテストの点数だけが学力と思いがちですが、理論と実践の総合的な力が「学力」です。

実験や実習は、時には「単純作業の繰り返し」と思えることもあるでしょう。しかしそれもコツや要領を掴み、熟練することで効率よく物事を進めることに繋がります。また身体を鍛え、忍耐力を磨くことにもなります。実践してこそ考える機会もたくさん生まれます。頭ではわかっているにもかかわらず実際にやってみると、なかなかうまくいかない、ということもあります。特に自然や生き物を相手におこなう農業分野においてはよくあることです。

こうした日頃の学習と同じように、自身の夢や目標は、実践することで道は開けるのです。かつて、アメリカで活躍した、元プロバスケットボールの選手で、「バスケットボールの神様」とまで言われた、マイケル・ジョーダンという人は、次のような言葉を世に残しています。「私は常に実践することでチームを引っ張ってきた。言葉で引っ張

ったことは一度もなかった。なぜなら、言葉が実践に勝ることはないと思っているからだ。」とあって、実践することの大切さを説いています。さらに「目標を達成するためには、全力で取り組む以外に方法はない。近道はない。」とも言っています。世界で活躍した名選手の言葉を参考にしながら、どうか皆さんも、ここ島農で「実践力」を高める一年にしてほしいと期待します。

第二の期待は、「挨拶」「言葉遣い」「集団行動」が、生徒の皆さんの自主的な取組で、もっと良くなってほしいということです。

コロナ禍において、先の見通しが立たない状況もありますが、今年・来年・再来年と、予定されている行事は着々と迫ってきています。来年は、本校の創立70周年記念式典が開催予定です。また、再来年は、農業クラブ九連大会の事務局と会場校を本校が担当します。九州各県からの代表選手が一堂に会する発表会を本校がお世話することになるのです。その際、多くの来客を迎えることになります。そのような場面では、「挨拶」や正しい「言葉遣い」、また時間厳守のうえ、静かにきびきびとした態度で行動ができるということが重要になってきます。そのことが、交流する人々や来客の方々に対する礼儀であり、ひいては「おもてなしの心」となるのです。皆さんは、意識してやれば何でも出来る高校生です。どうか、「挨拶」や正しい「言葉遣い」、「集団行動」などにおいて、今よりもさらに一歩前へ、ひとつ上を目指して実践してほしい。そして「意識してやる」行動から、「自然に振舞える」行動になっていくことを願っています。

以上、この二点について、皆さんが「考動」し、「実践」してくれることを期待します。

(第3学期始業式 校長訓話より抜粋)